



北緯40度



海の村で体験学習

観光物産などの交流を続けている矢巾町と村の小学生約50人が8月1日、村漁協堀内荷さばき所などで海の体験学習やニュースポーツに取り組み、友情を深めました。

開会行事で普代小児童代表の野崎聡太君（6年）

は「普代は海と山に囲まれた自然豊かな村です。一緒に思い出をつくりましょう」と歓迎。

児童たちはワカメのしん抜きとウニの殻むき（写真）に挑戦。村漁協の職員らの説明を受けながら、慎重にワカメの茎を抜き取ったり、ウニをスプーンで殻から外しピンセットでわたを取り除いていました。煙山小6年の佐々木真也君は「早く食べたいです。うまそうー」と大はしゃぎでした。



急斜面で腕を競う

北緯40度線を通る県北の11市町村の山野をバイクで走破する第30回イーハトーブトライアル大会が8月26、27の両日行われました。大会は全国から470人が参加。その中の八幡平市を出発点に普代村を折り返す「クラシックコース」には128人がエントリーしました。午後3時半ごろには、続々とライダーたちが普代浜に集結。山の急斜面を登る厳しいコースでは甲高いエンジン音とともに、度胸とテクニクを競いました。（写真）

交通安全 皆の願い

夏の交通事故防止県民運動の一環として8月11日、普代郵便局前で岩手県交通安全協会普代分会員や母の会、シルバー部会、中央区の子どもたちなど約30人が、街頭で交通安全を呼び掛けました。

参加者の皆さんは黄色いたすきを掛け街頭に、子どもたちは「歩行者も運転者も、おじいちゃんもおばあちゃんも力を合わせて交通事故を防ぎましょう」と繰り返し呼び掛けていました。（写真左）

8月6日には岩手県交通安全協会普代分会員の皆さん12人が、事故のないようにと村内162カ所のカーブミラーを清掃しました。（写真右）

